

荒川ハンノキプロジェクト & 荒川の草花を育てようプロジェクト

荒川ハンノキプロジェクトは、埼玉県の蝶「ミドリシジミ」のために、三ツ又沼ビオトープにハンノキの林を取りもどすプロジェクトです。荒川の草花を育てようプロジェクトは、外来植物*が増えるのをおさえるために、三ツ又沼ビオトープ周辺にもともと生えていた野草を増やす取り組みです。サポーター事務局では、この取り組みに参加する企業・団体・学校を募集しています。

*外来植物：人によって地域の外から持ち込まれた植物



一年の活動の総まとめ 川島町立出丸小学校

川島町立出丸小学校では、毎年5年生が総合的な学習の時間の中でプロジェクトに参加しています。昨年度のプロジェクト参加の総括として、3月10日(金)に自分が興味を持ったことや調べたことを発表する場が設けられました。児童は実際に現地で見つけたカヤネズミなどの生態や、ハンノキを育成してわかったことなどについて発表しました。



新5年生の活動はじめ 川島町立出丸小学校

5月10日(水)には今年度プロジェクトに参加する新5年生に向けて、あらかわ市民環境サポーターによる講話が行われました。まず、プロジェクトとして学校が育てている荒川の草花の開花した様子について紹介がなされました。その後、外来種の問題やゴミの不法投棄の問題など三ツ又沼ビオトープでの課題についても説明がありました。



荒川の草花のたねの授与 上尾市立平方北小学校



5月1日(月)、朝の集会で、荒川上流河川事務所の塚本副所長から平方北小学校の児童代表に荒川の草花のたねが手渡されました。平方北小学校には、昨年度に引き続き、荒川の草花を育てようプロジェクトに参加していただいています。

手渡されたたねは、「キンミズヒキ」、「チカラシバ」、「チョウジソウ」、「メハジキ」、「ユウガギク」の5種です。その日の午後に、早速、環境飼育委員会の皆さんによってプランターにまかれました。



いろいろな方が関わっています

三ツ又沼ビオトープに残された荒川の貴重な自然を守るために、いろいろな方々が三ツ又沼ビオトープに関わっています。

荒川の自然を守る活動に参加

ボーイスカウト上尾 4 団・9 団

3月19日(日)、ボーイスカウト上尾4団・9団が三ツ又沼ビオトープで、荒川の自然を守る活動に参加しました。環境サポーターの指導のもと、中国原産のマグワ伐りのほか、セイタカアワダチソウ等の外来植物を抜いてカワラナデシコ、トモエソウなどの荒川の草花のたねをまきました。



野外実習で活用

大正大学 人間学部 人間環境学科 環境政策コース

4月17日(月)、ビオトープの保全管理について体験的に学習することを目的に、教員と学生33名が三ツ又沼ビオトープを訪れました。実習では、環境サポーターの指導のもと、増えすぎた竹の伐採や中国原産のショカツサイなどを抜く活動を行いました。活動後には、環境サポーターと自然を守るための市民参加の大切さについて意見交換をしました。



年間を通じて保全管理に参加

埼玉動物海洋専門学校

今年度も、年間を通じた埼玉動物海洋専門学校の自然環境ゼミ実習が三ツ又沼ビオトープで始まりました。この実習ではゼミ生が3班に分かれて、一年を通して順次保全管理活動を体験します。まずは第1班が6月末まで毎週三ツ又沼ビオトープで保全管理を行います。

新入社員の研修で活用

武蔵野銀行、ファインモータースクール

4月に企業2社が三ツ又沼ビオトープで新入社員研修を行いました。12日(水)と18日(火)には武蔵野銀行が、19日(水)には今年度から初めてファインモータースクールが保全管理活動に参加しました。活動の後には、持続可能な社会を目指す上で、その基盤となる自然の大切さについて話し合いました。



写真左：ファインモータースクール、
写真下：武蔵野銀行



【三ツ又沼ビオトープ】

上尾市と川越市、川島町のさかい目にある、荒川の豊かな自然が守られている場所です。いつでも、だれでも自然に親しむことができます。

【環境サポーター大募集！】

自然を守る活動や自然学習の指導をする「あらかわ市民環境サポーター」を募集しています(荒川上流河川事務所内のサポーター事務局にて登録)。

地域の自然を守るためには、地域の方の力が欠かせません。自然が好きな方、荒川が好きな方、体を動かしたい方、いろいろな人と交流したい方、ご連絡をお待ちしています！